

実践報告

看図アプローチを活用したオンライン授業の実践 (3) ービジュアルリテラシーを定着させるための「教育学」授業のすすめ方ー

石田ゆき¹⁾

ISHIDA Yuki

キーワード：看図アプローチ・オンライン授業・Teams・アクティブラーニング・医療系大学

概 要

2020 年度、新型コロナウイルスの影響により筆者の勤務校でもオンライン授業が実施されることになった。前報・前々報では、看図アプローチは、オンライン授業でも対面授業に劣らない質の授業を提供できることが明らかになった。第 1 回目授業では絵図を、第 2 回目授業では写真をビジュアルテキストとして活用した授業モデルを提案した。絵図でも写真でも、どちらをビジュアルテキストとして活用しても、学習者は意欲的に授業に参加していた。また主体的・対話的で深い学びにつながる授業にもなっていた。しかし、「見て読み解く力」＝「ビジュアルリテラシー」を向上・定着するには、1～2 回の授業だけでは難しい。ビジュアルリテラシーを向上・定着させるためには繰り返しのトレーニングが必要である。本論文ではその繰り返しトレーニングの実践を報告していく。

I. 問題と目的

新型コロナウイルスの影響で、2020 年度開始から筆者の勤務校でもオンライン授業が実施されることになった。前報・前々報の実践により、看図アプローチ基盤型オンライン授業のモデルを示すことができた。今後さらに、看図アプローチ基盤型オンライン授業レパートリーを増やしていく必要がある。そこで本研究では、ビジュアルテキストとして写真を用いた第 2 回目授業に続く第 3 回目の授業を報告していく^{注1}。なお今回も、これまで同様 Microsoft の Teams を使った授業である。

II. 授業の目標等

II-1 授業科目・授業者・学習者等

本稿で紹介するのは前報・前々報と同じ、医療系 A 大学・リハビリテーション学科 2 専攻（理学療法・作業療法）の学生たちに行った「教育学」授業である。全 8 回授業（1 単位）の第 3 回目実践（90 分）を報告する。授業者は本稿筆者石田ゆき、学習者は理学療法 75 名・作業療法 17 名、計 92 名、全員 1 年生である。

なお次のような倫理的配慮をした。受講者からはレポート等を授業の中で紹介すること及び論文等で紹介することについての承諾を書面によって得ている。承諾を得られなかった学生（承諾書未

1) 日本医療大学

提出も含む) の資料は活用していない。このため、受講登録者は 92 名であるが、分析や考察には 82 名分のデータを用いた。

II-2 授業の目標

「教育学」授業の全体目標及び今回の授業の到達目標は前報・前々報と同様であるため、要点のみ再掲しておく。

「教育学」授業の全体目標 (再掲)

将来医療系の職業に就く学生たちにとっても「みること」は必要不可欠な学力となってくる。そのため筆者が担当している「教育学」では、学習者が将来必要となる「みる学力」＝「ビジュアルリテラシー」育成を目標としている。

今回の授業の到達目標 (再掲)

1. Teams を用いた看図アプローチ基盤型オンライン授業に参加することができる。
2. 看図アプローチの大切さ (「みること」の大切さ) に気づくことができる。
3. 「教育学」に興味をもつことができる。

今回授業の検討目標

本稿で紹介・検討するのは、看図アプローチを活用した「教育学」全 8 回授業の第 3 回目授業である。今回紹介する授業は、第 2 回目授業の続きの内容になっている。ここまでの授業展開の概略をまとめておく。

前報・前々報では、看図アプローチを活用した「教育学」の授業モデルを紹介した。1 回目及び 2 回目の授業に参加することによって、学習者たちは将来医療系の職業に就くにあたり「みる学力」＝「ビジュアルリテラシー」が必要であることを充分納得してくれていた。そのことを示す課題レポートをほとんどの学習者が提出していた。また、学習者たちは授業の中ではビジュアルテキストを「見て読み解く」ことができていた。しかし、わずか 2 回の授業ではビジュアルリテラシーの定

着は困難であることを示すデータも得られた。

第 2 回目授業では、授業の最後に、学習者が独力で読み解きを行わなければならないレポート課題を出した。その課題では、2 回の授業で身につけたはずのビジュアルテキストを「見て読み解く」力が十分に発揮されていなかった。



写真 1

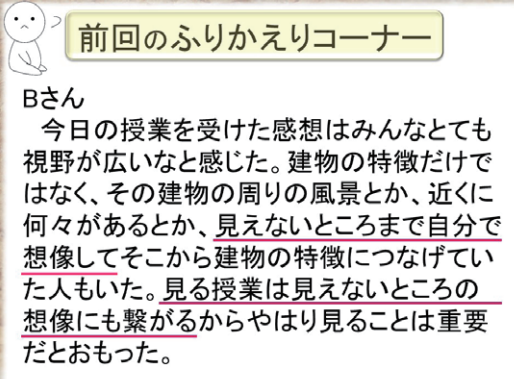
第 2 回目授業のレポート課題となった
ビジュアルテキスト

多くの学習者は写真 1 を見て「昔」「伝統」「懐かしさ」「江戸っぽい」「古風感」といった感覚的な感想を述べるにとどまっていた。授業中に授業者からの発問に対し回答していく場合は学習者たちは「見て読み解く」ことができる。しかし、独力での読み解きが必要な場面では応用できる力にはなっていなかった。ビジュアルテキストの読み解きができるようになるには反復が必要である。そこで本論文では、その反復トレーニングをどのようにしたかを報告する。さらにビジュアルリテラシーを高めるためにどのような教材系列をどのように用いたのか、その結果学習者たちはどのような力を身につけたのか報告していく。

III. 第 3 回目授業の実践

III-1 導入

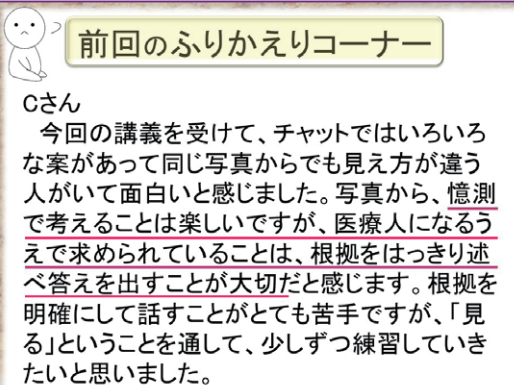
第 2 回授業の冒頭と同じく、各種注意事項の確認や補足説明、前回授業のふりかえりから始めていく。「前回のふりかえりコーナー」では、学習者から提出されたレポートを 8 例紹介した (例えばスライド 1・2)。



前回のふりかえりコーナー

Bさん
今日の授業を受けた感想はみんなとても視野が広いなと感じた。建物の特徴だけではなく、その建物の周りの風景とか、近くに何々があるとか、見えないところまで自分で想像してそこから建物の特徴につなげていた人もいた。見る授業は見えないところの想像にも繋がるからやはり見ることは重要だとおもった。

スライド 1



前回のふりかえりコーナー

Cさん
今回の講義を受けて、チャットではいろいろな案があって同じ写真からでも見え方が違う人がいて面白いと感じました。写真から、憶測で考えることは楽しいですが、医療人になるうえで求められていることは、根拠をはっきり述べ答えを出すことが大切だと感じます。根拠を明確にして話すことがとても苦手ですが、「見る」ということを通して、少しずつ練習していきたいと思いました。

スライド 2

適宜コメントを言い添えながら読み上げ、全体で共有を行った。出席の確認等もしたので、ここまででおよそ 30 分要した。

III-2 展開 1

前時の復習と本時への接続



第3講
教育の社会的役割(2)

「主体的対話」で深い学び

スライド 3 第3回目授業タイトルページ

スライド 3 を表示し、次のように伝える。「教育の社会的役割シリーズ 2 回目の授業ですが、オンライン授業になって少し進行がゆっくりなので、来週も続くかもしれません。うまくやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。今日も『主体的対話』を意識していきましょう。オンライン授業で『対話的』のところが難しいということですが、今日もみなさんのチャットを見ながら自分自身の中で主体的に対話してもらって、学びを深めていってほしいなと思います。ではちょっとだけ江別市についておさらいします。」



スライド 4

この説明の後、スライド 4 によって第 2 回目授業でテーマとなっていた「江別市」について簡単におさらいを行った。次のような内容を、写真を順に呈示しながら伝えた。「前回読み解いてもらった写真ですね。これ(スライド 4 左上の写真)が小学校。この文字の部分は未来をひらく“あすか”の子でしたね。それから郷土資料館ですね(スライド 4 右上の写真)。この 2 つの建物は向かい合わせにあったんですよ、という話でした。そして、都市景観賞、素晴らしい景観ですよと認められた建造物ですね(スライド 4 左下の写真)。この地域の共通点・特色として『レンガ』がひとつ。それからこの間『赤いサイロ』って言ってくれた人がいましたけども、『サイロ』をデザインに組み込んでいる。ということで、江別市は酪農とレンガのまちなんですよというところまでやりました。」

III-3 展開 2

「もうひとつのまち」の読み解き



スライド 5

スライド 5 を呈示する。スライド 5 の写真は、前回授業の課題レポートに用いたものである。この課題について提出されたレポートでは、ほとんどの学習者が「瓦屋根」「石畳」に着目していた。また、それらを根拠として「昔」「伝統」「懐かしさ」「江戸っぴい」「古風感」のような「印象」を述べるにとどまっていた。

そこで今回もスライド 5 を再呈示し、次のようにフィードバックした。「前回の課題にしていた写真ですね。この課題、みなさんが出してくれたものを読ませてもらいました。特に ABC(評価) とかはつけていないのですが、たくさん考えてくれた人もいっぱいいました。逆に、メール画面上で見ると 1 行しかない人もいました。一番たくさん書いてくれた人でも、そうですね、一番惜しいなと思う人でも 100 点満点で 50 点くらいでした。今『えー』って言うてくれました？写真を全体的にふわっと見ることはみんなできるのですが、なぜか目の前にある「もの」「こと」を突き詰めるというところまでもう一歩というところなんです。なので、みなさんのレポートを読んでいて私『あ、これはやりがいがあるぞ』と思ってですね、今日の授業を楽しみにしてきました。ということでこの「まち」の真相についてはこのあとの写真を読み解きながら、特色は何なのか一緒に考えていきましょう。そもそもここがどこなのかという確認もあとあとしていきます。」

上記の説明によって、「ビジュアルリテラシーを高めるための反復トレーニングが本時の目標である」ことを学習者にわかりやすい言葉にして伝えた。

この目標を達成するための導入課題としてスライド 6 を呈示した。



スライド 6

スライド 6 は次のように伝えてから呈示していく。写真を表示する前の空白画面で「まずはもう心を無にしてください。今日の最初のチャットタイムがあります。私がちゃんと合図を出すので慌ててチャットせず、まずはこのまちの特色のひとつを見ていきましょう。ちなみに、このまちは飛行機に乗って北海道を出ないと行けないまちです。」

そしてスライド 6 の写真を表示し「今日見ていく最初の写真です。これは何の足でしょう？」と発問する。このように予測発問を呈示し、約 1 分の個人思考をしてもらった。その後チャットを促していく。チャットの前には「チャットに参加したことのない人、遠慮している人も、この問題にはなるべく全員回答してみしてほしいと思います。私もチャットをすぐに追いかけて読まないようにして、余裕をもって回答時間を取ります。」という旨を伝えた。チャット入力落ちつくまで約 3 分待ち、内容の共有に移った。この発問にはチャット記録 1・2 のような回答が寄せられた。なお「シェンロン(神龍)」には 2 件の「いいね」が、「ドナルドダック」には 2 件の「いいね」と 1 件の「びっくり」等、学習者間でのリアクションが

みられた。授業者は各回答に対してだけでなく学習者間のコミュニケーションも面白がり、笑いながらチャットの読み上げを行った。この発問への回答数は 79 件であった。



チャット記録 1



チャット記録 2

チャット内容を共有したら、「全体のお姿を確認しましょう。」と言いながら確認写真（スライド 7）を呈示する。

スライド 7 によって、「鳳凰」の足であることを確認した。正解者には授業者から賛辞をおくった。そしてスライド 8 を呈示し、これが設置されている地域の由来について確認を行った。またスライド 9 によって富山県・富山市・高岡市の位置を確認した。



スライド 7



スライド 8



スライド 9

続けてスライド 10 で写真と次の予測発問を呈示した。ここでおよそ 45 分経過していたため、答えをを考えてもらいながらの 5 分休憩を挟んだ。この休憩は大学のオンライン授業実施方針に従ってとったものである。



スライド 10

スライド 10 発問に対してチャット記録 3・4 のようなチャットが寄せられた。チャットが落ち着くまでには 2 分程度要した。この発問への回答は全部で 68 件あった。

2	炭治郎	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	金太郎	2020/05/28 12:04
2	お坊さん	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	昔の人	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	西郷隆盛の足	2020/05/28 12:04
2	ももたろう	2020/05/28 12:04
2	鬼太郎	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	ダニエル	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	二宮	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:04
2	金次郎	2020/05/28 12:04
2	正力松太郎	2020/05/28 12:04

チャット記録 3

2	二宮金次郎	2020/05/28 12:05
2	豊臣秀吉の温めた草履を履いた俺の足	2020/05/28 12:05
2	農民	2020/05/28 12:05
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:05
	桃太郎	2020/05/28 12:05
2	こども	2020/05/28 12:05
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:05
2	たんじろう	2020/05/28 12:05
2		2020/05/28 12:05
2	善逸	2020/05/28 12:05
2	歴史人	2020/05/28 12:05
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:05
2	二宮金次郎	2020/05/28 12:05
2		2020/05/28 12:05
2	飛脚	2020/05/28 12:05
2	西郷隆盛	2020/05/28 12:05
2	二ノ	2020/05/28 12:05
2	二宮銀次郎	2020/05/28 12:05
2	二宮和也	2020/05/28 12:06
2	ひーじいちゃん	2020/05/28 12:06
2	セインカミュ	2020/05/28 12:06

チャット記録 4

チャット記録 4 中の「豊臣秀吉の温めた草履を履いた俺の足」回答にはこれまでで最多の 6 件の「いいね」がつけられた。これまで同様チャッ

トの内容を共有し、スライド 11 によって、誰の足なのかの確認を行った。



スライド 11

スライド 11 呈示の際、次のような主旨の内容を伝えた。「誰の足なのか確認していきましょう。この方なんです。二宮金次郎さんです。正解した方すごいですね。この二宮金次郎さんは、この地域と関係のある二宮金次郎さんなんです。このような像は全国にたくさんありますが、この二宮金次郎さんはちょっと特別なんです。課題（スライド 5）で考えてもらったまち並みの写真とも合わせて、（このまちの）特色、わかってきたりしていませんか。まだはっきりわからなくていいんですよ。いいですよ。順番にやっていけばわかるようになりますから。それではですね、もうひとつ、大事なものを見てもらいます。」

このように説明してスライド 12 を呈示した。



スライド 12

スライド 12 を呈示し、「ここは鳳凰の像があった橋である」ことを言い添え、予測発問「この親柱のデザインはどんなことを意味しているのでしょうか？」を呈示する。そして約 2 分、個人思考の時間を取る。その後チャット回答を促していく。チャット記録 5・6 のような回答が出された。



チャット記録 5

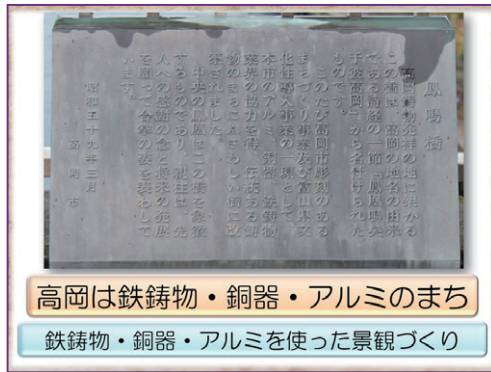


チャット記録 6

ここでは全部で 71 件の回答があった。チャットの入力と内容の共有で約 4 分経過した。内容の共有が済んだら、スライド 13・14 によって、この親柱のデザインに込められた意味についての確認をしていく。



スライド 13



スライド 14

スライド 13・14 で「高岡は鉄铸件・銅器・アルミのまち」であるとの確認を行う。



スライド 15

その上で、スライド 15 を呈示し次のように伝える。「課題の写真(写真 1)ですが、全体の雰囲気、色とか石畳とか瓦とか注目したところはあったと思います。全体的にこういう感じとかがて感じるのは、やっぱり『素材』が統一されているからなんですよね。もういっぱい見えてきているのではないかと思います。写っている『もの』の中で、鉄・アルミ等の金属でできているものはどれでしょう。チャットにあげてもらっていいですか。」

ここで呈示しているビジュアルテキストは第 2 回目授業の課題になっていた写真であるため、個人思考を取らずにすぐにチャットタイムに入った(チャット記録 7)。2 分半ほど時間を要して、チャット入力と同時に読み上げも行っていた。この発問に対するチャットは全部で 49 件出された。



チャット記録 7

前回授業のレポート課題ではほとんどの学習者が「石畳」「瓦屋根」をこのまちの特色のひとつとしてあげていた。チャット記録 7 中の「物置」

「標識の支柱」「排水溝・排水溝のふた」といった回答は前回のレポート課題中では出なかったものである。しかし、ここまで高岡市の景観を読み解いてきて、「金属が関係している」という視点から、学習者たちはスライド 15 を読み解けるようになってきている。

続けて空白画面を表示して次のように伝える。「ここまで高岡のものを色々見てきて、鉄・銅・アルミに目が慣れてきたのではないのでしょうか。今度はもっと広範囲から高岡のまちを見てみましょう。」

この後、スライド 16 によって写真と発問を呈示する。



スライド 16

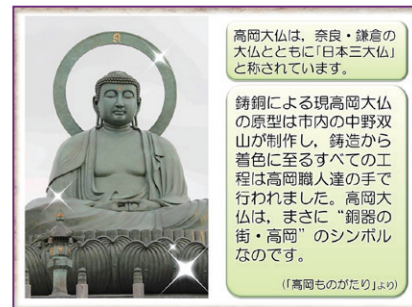
個人思考は約 1 分である。チャット回答は全 41 件で、そのほとんどが「大仏」「仏像」「銅像」という回答だった。そのためここではチャット記録の紹介は省略する。

III-4 授業のまとめ

第 3 回目授業の締めくくりとしてスライド 17・18・19 を呈示した。これらのスライドによって「大仏様の正面から見たお姿」を確認するとともに、高岡市の特色についてまとめた。ここまでで約 80 分経過していた。(第 3 回目授業の発問総数 5 問・チャット回答総数 308 件)



スライド 17



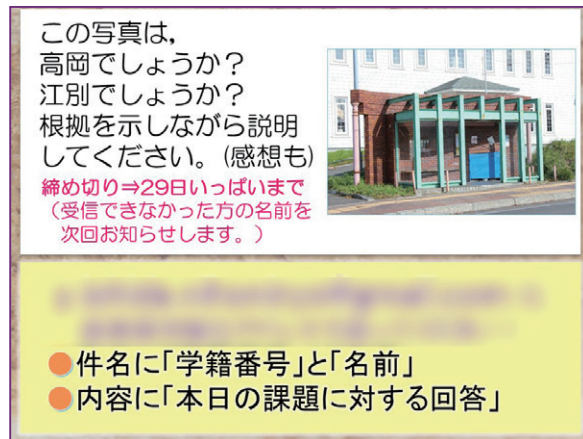
スライド 18



スライド 19

III-5 第 3 回目授業の課題

「対立」や「葛藤」を含むビジュアルテキストは、「問題—解決」型の学習を引き出す（鹿内 2014, pp.123-124）。この原理を活用して、学習者たちが動機づけを高めて取り組んでくれるようなレポート課題を構成した。第 2 回目・第 3 回目授業を通して学習者たちは「レンガのまち江別」と「金属のまち高岡」について学んできた。スライド 20 の写真には「レンガ」「金属」いずれの要素も含まれている。これらの要素は対立しており、江別か高岡かを判断するに際して葛藤が生じる。これらの条件が学習者の動機づけを高めると仮定して、スライド 20 を呈示した。なお個人情報に関わる内容部分はモザイク処理している。



スライド 20

この課題を、授業用に特設したメールアドレスもしくは Teams の個人チャットで提出してもらった。締切は翌日とした。今回の課題も、次回授業の予習になる内容である。今回の課題レポートは次の論文で紹介する。

この課題レポートでは本時の授業に対する感想も書いてもらっている。以下に、学習者の本時授業に対する「感想」を 20 例載せておく。

学習者 1 の感想

今日の感想はみんなおもしろい回答ばかりで、色々な発想があるんだなと感心してました。講義終わってもみんなの回答を見て 1 人で笑っています。こんな面白いリハビリテーション学科のみんなに早く会いたいです。

学習者 2 の感想

今日の講義の最後にやった高岡市にある高岡大仏は日本三大大仏ということなので実際に見てみたいと思いました。回数を重ねるたびに多くの人々がチャットにコメントしているので楽しく、他の人の意見も多く共有できるので本当に教育学を取って良かったなと思いました。来週の火曜日の授業も楽しみです。

学習者 3 の感想

今日の授業もチャットを沢山使う事ができて楽しかったです。他の授業ではチャットを使う事が無いので、先生とみんなと授業をしている感じが無いのですが、教育学はチャットを打ったら先生もみんなも反応してくれるので、授業を受けてる感じがしてとても良いなと思っています。

学習者 4 の感想

今日の授業の感想は、見る授業にだんだん慣れてきてみんなとチャットに書き込むのがとても楽しかったです。前回の授業まではすこし書き込んで送信するというのに抵抗があったけど今回はすんなり行うことができました！みんなのいろんな意見を今日も見れたり知れてとても楽しかったです。

学習者 5 の感想

今日の授業を受けて、「前の課題の写真で何がわかるんだ！」と正直思っていました。笑。でも、講義を受けた後にもう一回見てみると新たな発見がたくさんできて自分の「見る」という力がだんだんついてきたのかなぁと思います。チャットでも色々な人が面白い意見をたくさん言ってて、とても充実した講義になっています。来週も楽しみにしています。

学習者 6 の感想

やっぱり教育学の講義とても楽しく受けさせていただいています。笑いながら受けられる講義は教育学だけなのでこれからも楽しませていただきます。

学習者 7 の感想

勉強をしている、授業をしているという感覚が無く学べているのでとても楽しいです。他の授業でこのような授業をするのは難しい科目もありますがもっとこのスタイルが定着して欲しいです。

学習者 8 の感想

こうして授業を重ねていくと、(まだ3回目だけど) こういったビジュアルテキストを通じて、現代の教育に必要な「見る」力を養うための観察眼がどんどん養われていくのがわかる。さらにこの力を養うために大切な「意見交換」を非常にやりやすいこの遠隔授業という授業形態はとても相性がいいと思った。最初の授業で触れた、「主体的・対話的で深い学び」が出来てると感じた。まさにコロナの影響からできた怪我の功名だと感じた。

学習者 9 の感想

他の科目はずっと聞いている講義で「集中力が90分も持たない。早く終わらないかな。」と考えながら受けていることがあるけど、この講義はいつもあっという間に時間が過ぎている。また、みんなで見て考えて感じたことを伝え合う。それが楽しいしどの講義よりも理解しやすい。見る授業がもっと前から体験できていれば勉強が楽しいと思えたんじゃないかなと思った。

学習者 10 の感想

今回の講義を受けて、街の特色が決まる要因の一つとして素材というのがあるんだなと思いました。江別はレンガの街で高岡市は銅やアルミを使った街のように街にはそれぞれ違った素材を使って独自の景観を作っている

んだなと思いました。そして講義前半の振り返りコーナーや他の人の感想を紹介していくコーナーでは、他の人の意見を聞いて「こんなこと思ったりするだな」と思うことがすごくたくさんあったので今後もやって欲しいなと思いました。そして普段は積極的に意見することはないのですが、遠隔授業で対面授業の時より緊張しないので、自分も積極的にチャットだったり意見を共有していけたら良いなと思いました。

学習者 11 の感想

授業を受けるたびに見る授業の大切さを実感できます。見ることで、感じたり考えたりする表現力が高まっていると思います。自分にははっきりと意見を述べるのができないので、チャットでの発言で自分の考えを述べる練習もできて、自分にとってすごくためになる授業だと感じています。楽しい授業をありがとうございます。

学習者 12 の感想

今日の感想は根拠を示すのはとても大事なことでなと感じました。見たものをそのまま答えるのは簡単なことですが、なぜそう見えたのか、どうしてそう見えたのかを考えることによってなにも考えないで見た時よりも、見え方が変わり、新しい発見につながると思ったからです。私は根拠を文にすることが苦手ですが、これから医療人として働く上で根拠を持って発言しなければいけなくなると思うので、教育学で学んだ根拠を文にすることを他の授業にも活用して、今後の生活に活かしていきたいです。

学習者 13 の感想

見る授業は他の授業と比べてやっぱり頭に入るなと今日もあらためて感じました。他の授業は書くことがメインなので暗記や記述が多く、教育学のようなみんなで頭を使いながら考える、チャットを使いながら先生やみんなとのコミュニケーションがとれるというのはこの授業の良いところだと思います。これからの授業も楽しみです。

学習者 14 の感想

今回の講義で沢山笑えたことがとても良かったです。最近是人と会うことも少なく笑うことがあまりなかったので毎回の講義で笑えるこの時間をとても楽しみにしています。ありがとうございます。また、他の人の考えのどこからそうなるのかがとても気になりました。その人のこれまでの経験や知識などがそうさせているのか、それともその人の直感なのかとても気になります。その人の考えのプロセスはどこから来てどう構築されているのか、構築したのは親の教育の賜物なのか、とても興味があります。もっと知りたいです。今日も楽しい講義をありがとうございました！

学習者 15 の感想

今回の講義を受けて、高岡市の街並みの解析や、足の写真を龍の足と思ったり、色々考えました。みんなで意見を出すことは楽しいと改めて思いました。私は、鳳凰から由来する橋の意味をただ勝手に見たもので判断しました。しかし、**手の形であるとわかったときに、「もっとちゃんと見ていればよかった！！」と思いました。**みんなそれぞれの意見があり面白かったですが、「パッと」見て自分で判断をしても、答えはよく見ればわか

ることや、考えたらわかること、隠されているものまで気づくことに人間は鈍いと感じました。私は、見ることが出来たとしても「見方を変えて考える」ことは人に言われて気づくことが多いと思いました。今回の講義も楽しかったです。ありがとうございました。

学習者 16 の感想

以前の課題よりも、もっと推理性・想像性を掻き立てられるような課題を先生が出してきたので、先生もみんなの回答を楽しみに待っている気持ちがとても伝わってきました。同時に「**いい推理をしてやる！**」という**気持ちも湧いてきて**、課題なのにとっても楽しめました。いろいろな学問が様々な視点から講義をすることが大事だとはわかっていますが、全ての講義がこの形式になればいいのと思った自分もいます。

学習者 17 の感想

今回の授業の前半部分では、前回の授業に対する感想が多く紹介され、授業の参加者はこのように考えているのだととても勉強になった。なぜならば、遠隔授業により、他の人がどのように授業を受け、何を考えているかが見えにくいからだ。他の授業では、先生が一人で授業を行い、学生が一人で授業を受けているように感じ、非常に心細い。しかし、教育学の授業では、先生が何を考え、何を伝えようとしているか。そして、学生が何を感じ、そこから何を学び取っていくかが伝わって、非常に楽しい授業である。今後もこのように、講義からたくさんの物事を感じ取り、そこから自分自身の学びを深めていきたいと考える。

後半部分では、高岡市で撮影された写真を元に、情報を読み取り、それらを関連づけて、

特色を探していった。その作業がとても楽しく、一つの写真から得られる情報はとても莫大であることに気づかされた。

近年では、SNS にあげた写真により個人が特定されてしまったり、情報漏洩につながり処分されてしまうなどの事例がある。「見る」力をつけることで、「見られる」側の危険も感じる事ができた。「見る」ことで、大切なことに気づき、誰かの幸福を作ることもできるが、「見る」力を他の方法で利用すると…。と考えると「見る」能力を有効に使うって生きたいなと感じた。

石田先生、今回の講義もありがとうございました。

学習者 18 の感想

今日の講義の感想は「感謝の合掌」を表している建物で感じた事なのですが、見る学習でない「あーこんな物あるんだなー」程度にしか見ずスルーしてしまう。物をよく考えて何を表しているのかを表現することで自分の感覚がどんどん磨かれていくのを感じました。あと大仏で感じたことでは、見る学習をあまりやっていない日本では、どれだけすごい技術を使い街の特色を活かした作品であろうとも、それが象徴であると感じさせることが出来ないのかなと思いました。大仏に関してはただ「大きな」という印象しか与えられないと感じました。このままではシンボルを作ってくれた人々の努力があまり報われていないように感じられるのもっと見る学習を浸透させていくべきだと思いました。

学習者 19 の感想

普段何気なくやっている「見る」という行動が物凄く複雑で深いものだったんだという事に授業を受ければ受けるほど気づけるのが

楽しいです。前回の授業では一部から全体をイメージするという実感が正直あまりなかったのですが、今回の足から何かを想像する事で少しですが分かった気がして嬉しいです。個人的には適当に言った鳳凰が正解していて勝ったような気分でした。次の授業で江別シリーズが終わっちゃうのは少し寂しいですが次からはどんなシリーズが始まるのか密かに楽しみにしてます！

学習者 20 の感想

自分は、この写真は江別市だと思いました。理由は、壁にレンガが使われているところ、道の感じ、晴れているところから江別市だと思いました。先生のことなので、この間出てきたレンガの小屋の向かえではないかと思います。

授業の感想は、前回の授業と比べ、自分の感性や、想像だけではなく、しっかりと写真を見ればわかる問題もあったので、より視野を広げて授業に挑めました。この広く視野を持つことも医療人として大切なことなのかなと思いました。次回の江別市と高岡市の完結編楽しみにしています。

本時の目標は「ビジュアルリテラシーを高めるための反復トレーニング」であった。「漢字の書き取り」や「体力増強」といった反復トレーニングでは苦痛を伴う場合が多い。しかし本時の授業感想からは学習者たちがそのような苦痛を抱いた様子はうかがえない。もとより看図アプローチの授業ではそのような感想を見ることはほとんどない。看図アプローチの授業は、楽しみながら、多くの学習者に「気づき」や「学び」の効果を実感してもらうことができる（例えば学習者 5・8・11・17・18・19 の下線部）。中には看図アプローチ基盤型授業へのより強い参加意欲を示す学習者もみられた（例えば学習者 15・16 赤太字部）。

プログラムは美術学部の授業用に開発したものである。本論文で報告する授業も前報同様、鹿内らが開発した授業プログラムとビジュアルテキストを医療系学部の「教育学」授業に応用したものである。このように看図アプローチを活用した授業では、同じビジュアルテキストをまったく別の授業に応用することもできる。

参考までに「景観教育」「まちづくり教育」に関する鹿内他の研究文献リストをまとめておく。またその際、第2筆者以降の氏名ローマ字表記に関わらず公刊年次の順に文献名を配列する。

鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・
伊藤公紀 2009a 「ヴィジュアルテキスト
の読解指導を取り入れた大学授業の改
善(Ⅰ)－『景観行政論』導入部分の授
業づくり－」『道都大学紀要美術学部』
第35号 pp. 11-19

鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・
伊藤公紀 2009b 「ヴィジュアルテキスト
の読解指導を取り入れた大学授業の改
善(Ⅱ)－『花時計』を教材にした『景
観行政論』の授業づくり－」『道都大学
紀要美術学部』 第35号 pp.21-41

伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・
鹿内信善 2010 「ヴィジュアルテキスト
の読解指導を取り入れた大学授業の改
善(Ⅲ)－『景観行政論』導入部分の追
実施－」『道都大学紀要美術学部』第
36号 pp.11-19

伊藤裕康・石川清英・伊藤公紀・石田ゆき・
鹿内信善 2010 「ヴィジュアルテキスト
の読解指導を取り入れた大学授業の改
善(Ⅳ)－『花時計』を教材とした『景
観行政論』の追実施－」『道都大学紀要
美術学部』第36号 pp.21-46

鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・
伊藤公紀 2011 「ヴィジュアルテクニ

石田ゆき・山下雅佳実・鹿内信善 2019 「創造性を育むツールとしての看図アプローチ絵本づくり授業実践の報告ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』1号 pp.2-15

石田ゆき 2021a 「看図アプローチを活用した
オンライン授業の実際－医療系大学における
『教育学』授業を例にして－」『全国看図アプ
プローチ研究会研究誌』5号 pp.3-16

石田ゆき 2021b 「看図アプローチを活用した
オンライン授業の実際(2)ー写真をビジュアル
テキストにした『教育学』授業のすすめ方
ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』6号
pp.16-29

奥泉香 2018 『国語科教育に求められるヴィ
ジュアル・リテラシーの探究』 ひつじ書房

鹿内信善編著 2014 『見ることを楽しみ書くことを喜ぶ 協同学習の新しいかたち ● 看图作文 レポートリー ●』 ナカニシヤ出版

鹿内信善 2015a 『改訂増補 協同学習ツールの
つくり方いかし方 看图アプローチで育てる学
びの力』 ナカニシヤ出版

鹿内信善 2015b 「『看ること』から始める授業
づくり 看図アプローチとは何か」『看護教育』
56 巻 8 号 医学書院 pp.774-779

注1 鹿内他は、看図アプローチを活用した「景観教育」「まちづくり教育」に関する授業プログラムを数多く開発している。これらの

トの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (V) - 『水』をキーワードにした『まちづくり概論』の授業づくり - 『道都大学紀要美術学部』 第 37 号 pp.67-84
鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀 2012 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (VI) - 『水』をキーワードにした『まちづくり概論』の授業づくり (その 2) - 『道都大学紀要美術学部』 第 38 号 pp.47-68

石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善 2013 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (VII) - 『水』をキーワードにした『まちづくり概論』授業の追実施 - 『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.39-58
鹿内信善・石川清英・伊藤裕康・石田ゆき・伊藤公紀 2013 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (VIII) - 『まちづくり概論』の導入部分の教材づくり・授業づくり - 『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.59-74
鹿内信善・伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀 2013 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (IX) - 『くらしと景観』と『まちづくり概論』の接続 - 『道都大学紀要美術学部』 第 39 号 pp.75-89

伊藤裕康・石川清英・石田ゆき・伊藤公紀・鹿内信善 2014 「ヴィジュアルテクニストの読解指導を取り入れた大学授業の改善 (X) - 『産業景観』を教材とした『くらしと景観』授業の追実施 - 『道都大学紀要美術学部』 第 40 号 pp.57-67

* 手に入りにくい論文もあります。各論文にアクセスできない場合には全国看図アプローチ研究会ホームページお問い合わせフォームよりご連絡ください。

注 2 本研究の一部に 21530969・19K10791 を活用した。

2021 年 4 月 1 日受付

2021 年 4 月 9 日査読終了受理